



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2011 8



7月1日(金) 神戸市立東灘区民センターうはらホールにて第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。
(関連記事P.4~5)

— 人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざして —

生協はこの社会で何ができるのか

この度の第61回通常総会で会長理事に就任いたしました。連合会と県下の生協運動発展のために微力ながら全力を尽くして取り組む所存ですので、ご支援ご協力をよろしくお願ひします。

16年前の1995年1月17日、大都市直下を震源とするマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生しました。死者6,434人、負傷者43,792人と戦後最大規模の被害を出した阪神・淡路大震災です。特に震源に近い神戸市市街地の被害の様子は甚大で、日本国内のみならず世界中に衝撃を与えました。しかし、この3月におこった東日本大震災は、これをはるかに超えるものです。宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県

沖から茨城県沖まで南北約500km、東西約200kmの広範囲におよび、しかも、この地震により、場所によって波高10m以上、最大遡上高40.5mにも上る大津波が発生、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。

この東日本大震災での被害は、7月17日現在、死者15,578人、負傷者5,694人、行方不明者5,070人と報告されています。特に、いまだ5千人を超える行方不明者がおられることに対して、震災を経験している我々も適当なお見舞いの言葉をみつけることができません。復興に向けての動きも、着実に進んでいるとはいえない状況にあるようです。さらに、この地震と津波によって、東京電力福島第一原子力発電所において、深刻な原子力事故が発生しました。1986年にソビエト連

CONTENTS

- | | |
|------------------------------------|---|
| 2. 想点 | 9. 単協通信 園田学園女子大学生協／神戸市民生協 |
| 4. 第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 | 10. 協同のかけ橋 |
| 6. 労働安全衛生研修・学習会／
コンプライアンス研修のご案内 | 11. 兵庫県のページ |
| 7. 震災復興支援活動報告 尼崎医療生協／
姫路市民共済生協 | 12. 「ケニア・キベラスラムの子どもたち」のご案内／
「地球のステージ6」のご案内／
県連日誌／編集後記 |
| 8. 単協通信 コープこうべ／コープ自然派兵庫 | |



兵庫県生活協同組合連合会 会長理事

本田 英一

(ほんだ・えいいち)

邦で起きたチェルノブイリ原子力発電所事故以来の、多量の放射性物質が外部環境に放出された最悪な事故です。事故そのものの収束に向けての道筋が見えないばかりか、原子力発電所の停止によって深刻化する電力不足問題、放射能汚染の拡大による健康被害の不安、また一方、風評被害による農業・水産業に携わるみなさんのご苦労も大変心配されるところであります。

今、私たちの社会は、さまざま発生する問題について、多くの人が「なんとかしなければ」と思いつつも、具体的な解決の道筋を見出すことができません。将来に希望を持ちにくい社会になりつつあると言ってもよいのかも知れません。生協は「この社会を構成する多くの人々が、自分たちの力を寄せあつて事業と活動をすすめることで自分たち自身の生活を改善し、もってより良い社会づくりに貢献する」ということをめざした組織です。まさに今、私たち生協は社会から役割発揮を求められていると

言えます。そういうことから言えば、私たち生協人は「今後、生協はこの社会で何ができるのか、あるいは、組合員の力をどう結集すれば生協の社会的役割発揮の力を高められるのか」といった事について、もっとみんな語り、知恵を出し合うことが必要ではないでしょうか。もちろん、生協がこういった役割発揮をしていくためには、また一方において、他のどこからも財政的援助等を受けることのない生協として、いかなる経営環境にあつても市場経済の中を自らの足で立ち、しかも生協の名に恥じない事業で将来への発展に必要な事業剰余を生み出していく経営努力がこれまで以上に求められることは言うまでもありません。

国連は2012年を「国際協同組合年」と定めました。21世紀に入つて、世界のグローバル化がますます進んでいます。人や物や情報が世界中を自由に行き交う、それは素晴らしいことではありますが、またその変化から新たな問題も起こってきます。国際社会の秩序も20世紀後半

の日欧米の先進国を中心にしたものから大きく変容しようとしています。そういう中で、協同組合の「それぞれの違いではなく、共有できる価値観に着目して事業や活動をすすめる、競争や対立ではなく協同の関係をつくっていく」という基本精神が、これからの新たな国際社会づくりにおいても有効な考え方でないか、ということだと思えます。私たち生協を取り巻く環境も大きく変化しています。国際社会の変化が日本を揺り動かす、その日本の中で私たち生協も自らの存在意義を問い続けなければなりません。各会員生協が、「あらためて生協運動の原点に立ち返り、自らの組織、事業、活動のありようを再点検していくこと」が、「国際協同組合年」という国際的な呼びかけに主体的に参画していくことではないでしょうか。この兵庫の地でも「国際協同組合年」を生協運動の発展につなげられるよう、会員生協のみならずご一緒に取り組んでいければと考えています。ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

第89回

国際協同組合デー 兵庫県記念大会を開催

テーマ『協同の力で未来を拓く』

7月1日(金)神戸市立東灘区民センターうはらホールにおいて、兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)を組織する生協、農協、漁協、森林組合の主催により第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会が開催されました。

「国際協同組合デー」は、世界の協同組合に携わる人々が、平和とよりよい生活を築くために運動の前進を誓い合う記念日として、毎年7月の第1土曜日と定められており、兵庫県では毎年7月の第1金曜日に開催しています。また同日には、第28回兵庫JCC委員会が併せて開催され、各協同組合(連合会)のトップが参加し、活動報告および年度方針の確認、意見交換などを行いました。

当日は、有田聡里さん(兵庫県農業協同組合中央会)の司会で開幕し、会場には兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様と622名の参加で会場は満席になりました。

第一部の記念式典では、冒頭、東日本大震災の犠牲者の方へ黙祷をささげたと、主催4団体を代表して兵庫県生協連・本田英一会長理事(兵庫県協同組合連絡協議会会長)が「本日の国際協同組合デーは、全世界の協同組合人が心を一つにして、平和とよりよい生活を築くため協同組合運動の発展を誓い合う日です。現在、環境問題や食糧問題、食品の安全性の確保などさまざまな問題が



兵庫県生協連
本田英一 会長理事

あげられ
ているな
か、問題
解決に向
けて、生
活者の組
合である



兵庫県副知事
金澤和夫 氏

生協と生
産者であ
る農協・
漁協・森
林組合が
相互の立
場を認め

合い協力しあって共に進んでまいりたいと思います。今年2011年度は、国連が定めた「国際森林年」です。また来年2012年は「国際協同組合年」となっており、続く2013年は兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)の設立30年の節目にあたります。今後も兵庫の協同組合4団体とそこに集う人々の力と知恵を結集し、協同の輪を広げ兵庫の協同組合の発展と地域社会の発展につなげてまいりましょう」と挨拶、続いて、ご来賓を代表して兵庫県副知事・金澤和夫様から「本日は、生協、農協、漁協、森林組合関係の皆様方が集われ、記念大会を開かれますことを心からお喜びを申し上げます。4者それぞれの分野は違いますが、存在の小さい一人ひとりの力を集めて組合員の協同利益につなげていこうという協同組合の理念は同じです。その中で、「生産の現場」と



神戸市市民参画
推進局局长
大谷幸正 氏

兵庫JCC・東日本大震災への支援として「激励メッセージ」を贈りました。



3月11日に発生した「東日本大震災」の地震・津波により未曾有の被害を受けた宮城県に対して、兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は激励のため、農協、漁協、森林組合、生協の4団体から、90のメッセージを募集し、ポスターにして「宮城県協同組合こんわ会」(兵庫JCCと同様に農協、漁協、森林組合、生協の4団体で協同組合の連携を深める取り組みをすすめている)へ贈りました。

●宮城県協同組合こんわ会 事務局より●

6月30日にメッセージを受け取りました。想像以上に立派なもので恐縮しています。7月2日に開催の協同組合デー・宮城県大会の会場に掲示し紹介させていただきます。また、大会終了後、各団体に届けさせていただきます。ありがとうございます。

協同の力で未来を拓く 第89回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会

主催/兵庫 JCC (生協・JA・JF・JForest)

「心地よい暮らしを守るために、
自然と共に生きる」
浜美枝氏



JCC宣言を力強く
読み上げる
兵庫県漁協女性部
連合会会長
森 武美 さん

『生活者（消費者）』の4者の互いの理解を深めることは、大変重要なことと思います。課題は、数々ございますが、兵庫県の協同組合のこれまで培ってこられたエネルギーで、さらに力強く進んでいただきたいと思います。本日が皆様にとりまして有意義な一日になりますようご祈念いたします。」とご挨拶をいただきました。その後、神戸市長・矢田立郎様から（代読、神戸市市民参画推進局局长・大谷幸正様）ご祝辞をいただきました。最後に、兵庫県漁協女性部連合会会長・森武美さんが「第89回国際協同組合デー 兵庫 JCC宣言」を力強く読み上げ、



会場の参加者全員の賛同の拍手をもって第一部を終了しました。

第二部では、浜美枝氏を講師に「心地よい暮らしを守るために〜自然とともに生きる〜」をテーマに記念講演が開催されました。講演では、同氏が、中学生時代に柳宗悦の著書に出会い、民衆的工芸品（＝民衆の使う物、民芸品）にある美しさを知り、後に、かつての自然と共に暮らしていた日本の生活を知りたいとの思いから全国各地を旅し、村々に通い、多くの人との出会いを経験された中で感じてこられたこと、また、ご自身の農業体験から、地産・地消、食料自給率向上の大切さについてもお話をいただき、「食料自給率を上げる為にも、今こそ、生産者と消費者側が新しい絆と信頼関係を作っていくことが大事です。そして消費者は無防備であってはならないのです。」と話されました。続いて、自然環境の保全、美しい景観を守ることが、農業を守り、森林を守り、海を守ることになる。今こそ、豊かで成熟した社会の実現に向けて私たち一人ひとりが取り組まなければならないと述べられました。最後に「『協同』とは、互いに相手を思いやり、支え合っていくことです。一人ができるささいなことから結構です。今後、益々皆様の絆を強めて、さらにステップアップしていただきたいと思えます」と結びました。講演では、その他にも子育てや女性の生き方についてのお話や、同氏が影響を受けた沖繩の花織（織物）に尽力された与那嶺貞さんのお話など多岐にわたり、楽しいお話に、会場の参加者は熱心に聞き入っていました。

第89回国際協同組合デー兵庫 JCC宣言

3月11日に東日本を襲った大震災と津波は、多くの尊い人命を奪ったばかりでなく、被災地の地域社会に壊滅的な被害を及ぼし、また、原子力発電所の功罪を浮き彫りにしました。この波紋は、単に被災地のみならず全国に波及していますが、同時に国内はもとより世界中に支援の輪がひろがりました。

私たちは16年前に阪神淡路大震災を経験しています。希望を失いそうなの日々なか、日本各地より寄せられた温かい支援が復興への励みとなりました。こうした経験から全国に先駆けて、私たち協同組合組織も支援活動を続けています。被災地の一日も早い復興を祈りつつ、これから心をひとつにした活動が望まれます。

さて、本年は国連が定めた国際森林年です。国際森林年は、世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的として制定され、我が国でも、「美しい森林づくり」を目的とし、森林・林業再生を目指して様々な活動が予定されています。

また、来る2012年は、国連が「国際協同組合年」とすることを宣言いたしました。これは、協同組合がこれまで社会経済開発や世界の食料安全保障、金融危機といった面で果たしてきた役割を国連が高く評価し、各国の協同組合がこれらの問題にいつそう強力に取り組むことに期待し制定されたものです。

このような時代だからこそ、ここ兵庫の地からも、現代における協同組合の価値と私たちの果たすべき役割について、社会に対し何がアピールできるか、いま一度、考えようではありませんか。

本日、第89回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、今こそ協同組合の原点に還り、私たちの身の回りから協同の関係をつくり出すことはもとより、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させるとともに、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2011年7月1日

第89回国際協同組合デー・兵庫県記念大会



併せて開催された「第28回兵庫 JCC委員会」

兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは 【Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives】

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県下の生協、JA（農協）、JF（漁協）、森林組合の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回（1984年）の協同組合デーを機に設立したもので、本年で28周年を迎えました。



社会保険労務士・茶園氏

7月19日(火)兵庫県民会館において、生協の事業・経営という視点から見た職場の労務管理とハラスメントについて、会員生協・団体を対象に「労働安全衛生研修・学習会」を開催し、8生協1団体から担当役職員12名の参加がありました。



当日は、コープこうべの労務安全衛生顧問としての就任経験もある社会保険労務士・茶園幸子氏を講師に研修・学習会をすすめました。労務管理については、労働基準法の基本からお話をいただき、労働契約、賃金、労働時間関係（労働時間、休日、時間外・休日労働、年次有給休暇）、解雇、就業規則、法定書類について、わかりやすい解説とともに参加者と実例をあげながら内容の確認をしました。

続いての「(職場内での)ハラスメント関係」については、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントについて、根拠条文の内容を解説いただくとともに、実際に該当する要件について説明をいただきました。そのうえで事業主が講ずべき措置について、就業規則への方針の明確化や体制の整備、事後の対応について具体的なお話をいただきました。

研修・学習会中は、参加者から積極的に質問が出され、生協の健全は運営と効率的な経営、そして生協職員にとってより働きやすい職場環境のありかたについて学習をすすめました。参加者からは、「実例などをまじえ現場で必要な内容を分かり易くお話いただきました」「質問が大変しやすく良かった」等の感想も寄せられ、内容の濃い実りある研修・学習会となりました。

2011
年度

兵庫県・兵協連共催

コンプライアンス研修のご案内

2008年4月に改正生協法が施行され、組合員の保護を図る観点から、事業の健全性を確保するとともに経営責任態勢の強化が強く求められています。

兵協連では、会員生協に改正生協法に基づいた健全な生協運営を行っていただくため、この間、「内部統制研修」「監事研修(兵庫県共催含む)」を開催してまいりました。引き続き、今年度は、以下の内容でコンプライアンス研修を開催いたします。

多忙な時期とは存じますが、みなさまの多数のご参加をお待ちしています。

日時：2011年9月10日(土) 午前10時～12時

会場：兵庫県民会館 10階「福」

対象：会員生協常勤役員(非常勤役員、担当職員も可)

内容：① 清原桂子氏(兵庫県 理事)による講演

② 三宅 充氏(MMコンサルティング)による講演

※詳細内容は近日中にお知らせいたします。

●お問い合わせ・お申し込み：兵庫県生活協同組合連合会 TEL. 078-391-8634



尼崎医療生活協同組合

「ボランティアのみなさんのおかげで
生きる希望が持てた」

尼崎医療生協では医療福祉協連近畿ブロックに呼びかけ宮城県山元町への生活支援ボランティアを5月から派遣しています。被災地現地事務局を起ち上げ、ボランティアコーディネーターは、尼崎をはじめ、近畿や全国の医療生協の組織担当者等が現地に常駐し、被災地住民への訪問行動を行っています。被災者ニーズを受けて、近畿をはじめ全国の医療生協からの週末ボランティアを受け入れて、被災住宅の床下の泥出し、側溝のヘドロ除去、仮設住宅への健康チェックなどの活動を展開しています。



力を合わせて泥だし作業

6月11日(土)には「近畿総行動デー」と銘打って、近畿一円から300人を超えるボランティアが山元町に集結。山元町花釜地区の被災住宅を中心に、泥出し作業、炊きだし、仮設住宅訪問を行いました。

医療生協の

ボランティアは、被災者・コーディネーター・ボランティアの三者が協同して行うところに大きな特徴があります。三者が直接・間接でしっかりと話し合った上での作業になるので、「生きる希望が持てた」「上を向いて歩きたい」などの感謝の言葉に被災者の満足度もとても大きく表れています。

被災者の立場になってコーディネーターが寄り添い、被災者の思いを引き出すことは、実際とても難しいのです。「うちは大丈夫だから」とおっしゃる方たちがほとんどで、作業を依頼することをためらって、作業依頼の手続きしない方が多いといえます。しかし、よくよくお話しをうかがってみると、実際は家の中がまったく片付いていない、生活再建への道筋も立っていない、などの声を聞くことができます。

今日も、地域へ出での訪問行動を通じて、被災者との関係づくりを積極的に行いながら、生活支援ボランティアは続けられています。

(通信員 杉山貴士)



ボランティアリーダーの打ち合わせ

姫路市民共済生活協同組合

「復興の願いを義援金にのせて
被災者の方々に全力で応援します」

平成23年3月11日(金)14時46分、東日本大震災が起り多数の方々が被災され、各地に甚大な被害をもたらしました。姫路市民共済では、少しでも被災者の方々のお力になりたいと思い、いち早く当組合事務所内に義援金募金箱を設置しました。役職員だけでなく事務所に訪れた多数の組合員の方々にもご協力をいただき、5月17日(火)に姫路市福祉総務課に義援金を提出させていただきました。



姫路市福祉総務課(左)に義援金を渡す当組合職員(右)

現在もお余震が起り、復興活動や節電対策等で不安定な状況が続いていますが、今後も姫路市民共済では、被災者の方々のお役に立てるよう努めていきたいと役職員一同考えております。

(通信員 山本悠人)



生活協同組合コープこうべ

県と協働で「ひょうご暮らしの大学」スタート 生活に関わるテーマを楽しく学ぶ

7月6日(水)、コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区)で「ひょうご暮らしの大学」がスタートし、40人が1期生として学び始めました。この講座は、自ら理解・選択・行動できる「消費者力」の実践リーダーを育てようと、兵庫県とコープこうべが協働し、神戸と姫路で開かれるものです。開校式では、兵庫県理事・清原桂子さんが挨拶。「児童虐待などの背景には、炊事・洗濯などの



挨拶をされる 清原桂子 兵庫県理事

生活が自立していないことも。暮らしの技術は次の世代にしっかりと伝えなければ。みなさんには地域の核となる人に育って欲しい」と話しました。



続く第1回の講座では、コープ活動サポーターセンター住吉の林律子さんが、「心に残る『はじめまして』を講義。相づちをうつつ自己紹介で違いを認める気持ちを学び、漢字のゲームでグループの力を実感しました。最後に各自の参加目的を紙に書いて発表し、学びたいことを共有しました。

今後は、消費者問題、地域再発見などをテーマに3月まで14回にわたって学びます。

(通信員 榎原晶子)

生活協同組合コープ自然派兵庫

2011年度田んぼの生きもの調査



「これは何？」数のカウント作業

イトミミズなどを数える調査をしました。初めての参加者には白いバットに入った泥の中から動く物を探すことから始めてもらい、イトミミズ・ユスリカの違いを説明し、数をカウントする作業をお願いしました。

あちらこちらから「これは何?」「この動いているのは?」「これ数えたかな?」……。ポケット図鑑を見ながら一生懸命にしてくださいました。珍しいものでは、飛び虫・モノアラガイ・カゲロウなどを採ることが出来ました。

今年も豊岡市祥雲寺地区にて、田んぼの生きもの調査を行いました。例年と違い土曜日の開催になったことで参加申込みも少なめでしたが、最終的にはコープ自然派の仲間であるピュア大阪の新任理事家族や、生産者、JA、豊岡市のスタッフを含め77名の参加がにぎやかに開催しました。

調査は、いつものように、子供達がビオトープで水棲の生きものを採す事から始まり、大人は環境調査や

(副理事長 山口邦子)



園田学園女子大学生生活協同組合

生協生誕祭「七夕まつり」を開催しました

園田学園女子大学生協は、1995年阪神淡路大震災の夏に創立し、今年で16年目を迎えました。そして「七夕まつり」を生協の誕生日を記念して毎年開催しています。学生、教職員をはじめ、この時期短期留学をしている台湾開南大学からの留学生、付属幼稚園の児童・保護者・ご家族、近隣住民の方々にも参加して頂く祝いの祭りです。今年7月8日(金)に、開花亭(生協食堂ホール)で開催し、晴天に恵まれたこともあり約400人の方々の来場で賑わいま



した。

会場では模擬店あり、ゲームありでとても盛り上がりました。特に、恒例の盆踊りは留学生の方も先生の振り付けを見よう見まねで踊っていたが、笑い声の絶えない楽しい盆踊りとなりました。少しでも国際交流に役立てたのではないかと思います。今年から長期留学生の母国である韓国やインドネシアの料理も模擬店で振る舞っていたきました。

生協学生委員は約2ヶ月前から企画、渉外、物品調達などの準備をしてきました。また県下の大学生協学生委員の皆さんも50数名応援に駆けつけて頂き成功することができました。

年に一度の文字通り「七夕の夜」にふさわしい楽しい宴でした。永遠に続くことを願っています。

(通信員 藤井貴浩)

神戸市民生活協同組合

ラインの館で

サマーコンサートを開催しました

7月5日(火)に、ラインの館において「サマーコンサート」を開催しました。このコンサートは音楽を通して、日頃異人館を訪れる機会の少ない方々にも、ラインの館により親しみを感じていただこうと企画し、毎回好評をいただいております。

梅雨の合間のお天気にも恵まれたこともあり、たくさんの方々にお越しいただきました。今回は声楽とフルート、電子ピアノのアンサンブルで、「虹の彼方に」や「チャールダッシュ」など名曲の数々が演奏されたほか、オペラ曲「乾杯の歌」、ミュージカル曲の「メモリー」、さらには日本の唄の「小さな空」など美しい歌声が披露されました。

参加者の方々からは、「すべてにおいて感情がこもっていて、音楽の物語の光景が目浮かぶようです。初めて観させて頂いて、気持ちも軽くなってスッキリしました」、「美しい声とフルートが重なりあって、よいハーモニーが素敵でした」などの感想が寄せられました。ラインの館



歌声と音楽に包まれる異人館

については「庭のお手入れ等、行き届いていると思います。清潔感があつてとても良いです」、「神戸が一望できるし、自由に見学できるので、異人館に遊びに来る際は必ず訪れます」といった多くのお声を頂戴しました。

ラインの館は北野・山本地区で唯一の無料開放異人館です。これからもより多くの方々に足を運んで魅力に触れていただきたいと思います。

(通信員 鹿田裕子)

協同組合のかけ橋

JF 兵庫県漁業協同組合連合会

「サバイバル訓練」実施！ ～香住漁港で漁業者らが訓練～

船から海中に転落した際の注意点や救助方法などを紹介する『サバイバル訓練』が6月3日、香美町香住区の香住西港で行われ、地元漁業者や香住高校海洋科学科の生徒たち約100人が参加しました。

この取り組みは、作業用救命胴衣等の正しい装着・整備方法を熟知するとともに、膨張式救命いかだの正しい操作方法や海中転落者の適切な救助方法、乗組員が非常時において生き抜くための知識を身につけることを目的に船員災害防止協会の主催で行われています。

訓練は、神戸運輸監理部 筒井課長をはじめ担当者から、最新型の救命胴衣の紹介や、転落した際に救助を待つまでのポイントや救助方法に加え「ペットボトル等浮くものを利用し、絶対に生きるという意識を持つ」と説明がありました。この後、実際に海に飛び込み転落者を助ける訓練、自動膨張式の救命いかだを実際に海中に投下し乗り込む訓練の他、救命いかだ内の機材説明や、実際に発煙筒や落下傘式発煙筒を使用する訓練など充実した内容のものでした。この日の訓練を機に一層海上安全に対する意識を高めて頂きたいと思えます。



救命いかだを使った実習



ロープの講習もありました

JA 兵庫県農業協同組合中央会

但馬の自慢をたじまんまで ファーマーズマーケット開店



グランドオープンの様子

JAたじまは6月17日、ファーマーズマーケット「たじまんま」をグランドオープンさせました。大型の直売所の開設は、JAたじまでは初めてのことです。

朝9時の開店には約200人が行列を作り、店内にはトマトやキャベツ、ニンジンなどの野菜や、パンなどの加工品、但馬牛肉などが並べられ、開店の時を待ちました。出荷者の代表やJAたじまの役員が、開店記念のくすだまを割ると、待ちわびた人たちが店内に入り、早速、買い物を楽しみました。たじまんまでは現在、約400人の生産者が出荷者として登録しており、新鮮で安全・安心な食材を消費者へ届けています。近くに住む主婦は、「品ぞろえの多さと新鮮さに満足できた。この満足感がいつも感じられるよう、期待している」と話していました。

たじまんまの名称には、「但馬の大地で採れた特産を、まるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められていて、金子洋一代表理事組合長は、「生産者の自慢の品、但馬の自慢の品を出荷してもらい、開店することができました。農業の力で但馬を元気にしたい」と話していました。



最近の消費生活相談事例

投資型分譲マンションの電話勧誘

事例

新築マンションを投資目的で購入しないかと職場に何度も電話があり、断り切れずに会う約束をさせられてしまった。業者名も連絡先も分からないが、もう一度連絡があることになっている。会う約束を断っても問題はないか。

【アドバイス】

「新築マンションを購入すれば、家賃収入が入る」といった、投資を目的としたマンションの電話勧誘に関する相談が、多数寄せられています。

マンションを購入する気がないのに会えば、強引に契約させられる可能性があるので、購入する気がなければ、約束をきっぱりと断るようにしましょう。

宅地建物取引業法（宅建業法）では、勧誘にあたって相手を脅迫したり、電話による長時間の勧誘などにより、相手を困惑させてはならないと定められています。違反した場合は、行政処分の対象となります。

投資型分譲マンションの電話勧誘で、長時間にわたって一方的に話をされ、電話を切ることが出来ないなど、長時間、強引、脅迫まがいの勧誘を受けたときは、各都道府県の宅建業法の所管課、国土交通省、国土交通省の地方整備局等に申し出るとよいでしょう。可能であれば、業者名、連絡先を書き留めておきましょう。また、通話内容を録音するなどの対策も効果的です。

もし契約してしまった場合、契約書面を受け取ってから8日間以内であれば、クーリング・オフできる場合もあるので、早めにお近くの消費生活センターにご相談ください。

暴力を振るわれたり、脅かされたりした場合は、警察に申し出ましょう。

（東播磨消費生活センター）



MOVE

トーク & ジェンベ(民族楽器)演奏

ケニア・キベラスラムの子どもたち ～すべてのいのちは たがらもの～

東アフリカ最大のスラム・キベラ地区。その中にあるマゴソスクールで未来を信じ、夢をもって懸命に生きている子どもたち。その子どもたちの大切なのちに思いを寄せてみませんか。早川さんのお話の後には、太鼓やダンスでアフリカを感じましょう。ケニアの子どもたちから日本へメッセージが届いています。

日時：2011年9月11日(日) 14時～16時30分(予定)
会場：コープこうべ生活文化センター 2階ホール
神戸市東灘区田中町5-3-18(JR住吉駅、東へ徒歩約8分) TEL. 078-431-5273
定員：100人 参加費：無料(資料代：500円)

講演：早川 千晶さん 1966年福岡生まれ。世界放浪の旅の後、ケニアに定住。現在は、孤児・元ストリートチルドレンなど、学校へ行けない子どもたちのための「マゴソスクール」の運営に携わる。

演奏：大西 匡哉さん、近藤 ヒロミさん、山北 紀彦さん
※会場の準備がありますので、事前にお申込みください。

●お問い合わせ・お申し込み 兵庫県ユニセフ協会 TEL.078-435-1605(平日の10:00～16:00)



地球のステージ6 ～久遠の帰還～

『地球のステージ』は、医師・桑山紀彦が世界の紛争、災害地域をめぐりそこで出会った人々の姿を、オリジナルの歌と映像で贈る、映像と音楽のライブステージ。

日時：2011年10月1日(土) 14時開演(13時半開場)
会場：コープこうべ生活文化センター 2階ホール
神戸市東灘区田中町5-3-18(JR住吉駅、東へ徒歩約8分) TEL. 078-431-5273

入場券【全席自由席(消費税込み)】
一般 前売り 800円 当日 1,000円
小・中学生 前売り 400円 当日 600円

ステージ進行役：桑山 紀彦氏(NPO法人 地球のステージ代表理事/精神科医、医学博士)

構成 「ルワンダ篇」
「国境難民キャンプ篇」
「東日本大震災篇」 ほか

●お問い合わせ・お申し込み
コープこうべ生活文化センター TEL.078-431-5273

編集後記

7月1日(金)に開催した協同組合デーでの浜美枝さんのご講演の中で「最近では、食事をしながらテレビを見る環境が増え、ひとりり食べる『個食』が増えた。時代が進むにつれて暮らしのあり方が変わってきた」とのお話がありました。思い返してみると、北山の子どもの時代は、「食事の時はテレビを見ない」「ルーが確かに存在しましたが、現在は、我が家も完全に個食文化圏です。今やテレビは一人1台の時代。いずれは、外食の方がテレビが無い分、家族団らん(コミュニケーション)が図れると言われる時代になるのでしょうか?どちらが正しいのか、答えは出せませんが、改めて現在と昔の暮らしの変化に気付かされた内容でした。そして、本当に、美しい方でした……。(北山)

県連日誌

- 8月1日(月) 兵協連第1回理事会・兵協連第1回理事會
- 8月4日(木)～6日(土) 日生協ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ(県民会館 1201)
- 8月10日(水) 兵協連ピースアクション2011「被爆ピアノ平和コンサート」(神戸市立東灘区民センターうはらホール)
- 8月19日(金) 関西地連 第1回大規模災害対策協議会(生協会館新大阪)

(お詫び)
本誌7月号7ページ「兵協連・2011年度新執行体制」の「酒井行雄理事」のお役職名を「兵庫県労働共済生協・理事長」とすべきところ誤って「専務理事」と記載いたしました。また、13ページ「神戸市民生協」の原稿執筆者のお名前に間違っていました「龍掛 寛」様とすべきところ誤って「幸雄」と記載いたしました。お詫びし、訂正させていただきます。